

# 「がん検診」受けていますか？

## あなたが受けられる検診

●加入保険に関係なく受診できます。●本人確認のため、保険証や運転免許証など身分証明書の提示を求める場合がありますので、検診受診の際はご持参ください。

胃がん 大腸がん 肺がん

子宮頸がん 乳がん

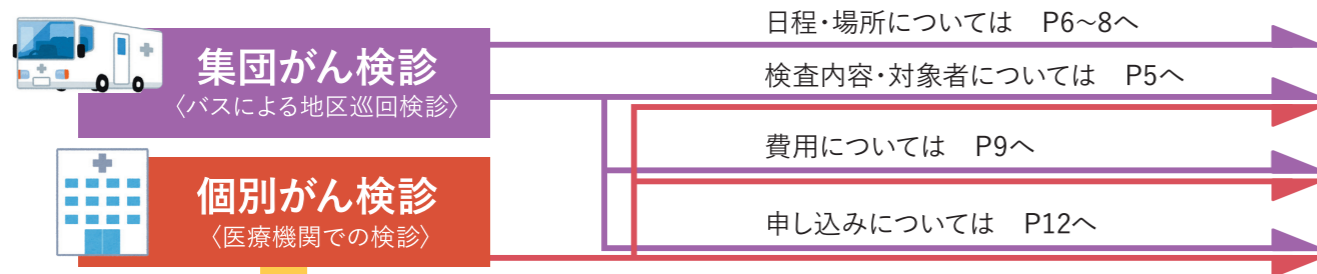
性別	年齢	検診内容
男性	40歳～	●胃がん※1 ●大腸がん ●肺がん
女性	20・30歳代	●子宮頸がん ●HPV検査※2 ●乳がん(エコー)
	40・50歳代	●胃がん※1 ●大腸がん ●肺がん ●子宮頸がん ●HPV検査※2 ●乳がん (集団検診はエコー・マンモグラフィ) どちらか一方の検査
	60歳～	●胃がん※1 ●大腸がん ●肺がん ●子宮頸がん ●乳がん (集団検診はエコー・マンモグラフィ) どちらか一方の検査

※1 個別検診について、50歳以上で令和6年4月1日現在の年齢が偶数である人は、胃部X線検査・胃内視鏡検査どちらか一方の検査。それ以外の人は胃部X線検査のみ。

※2 20～50歳以下の対象者。

### バスによる地区巡回の「集団検診」と医療機関で受ける「個別検診」があります。

同一年度内に同じ種類の検診について、**集団がん検診と個別がん検診の両方を受けることはできません。**どちらかの方法を選択してください。



### 個別がん検診

- 検診実施期間/5月20日(月)～令和7年2月28日(金)
- 申し込み締め切り/令和7年2月12日(水)
- 受診場所/四日市市内、三重郡内の医療機関

各医療機関では、受診者数に限りがあるため、ご希望の医療機関がある場合は、早めにご予約ください。受診できる医療機関の一覧表は、受診券とともに送付します。

**市では、受診率向上のため、下記対象者へ自動的に受診券を送付する特別勧奨を実施しています。【申込不要】**

対象者へ5月中旬ごろ発送

- 【対象者】
- ① 令和4年度または令和5年度に個別がん検診を受けた人
  - ② 今年度中に40歳になる人(昭和59年4月2日～昭和60年4月1日生まれ)
  - ③ 四日市市国民健康保険に加入している、40歳～69歳までの2歳刻みの男性
  - ④ 今年度中に60歳になる人(昭和39年4月2日～昭和40年4月1日生まれ)
  - ⑤ 乳がん検診対象の人(→P5)
  - ⑥ 令和3年度に、市の実施した子宮頸がん検診とHPV検査を同時受診し、どちらの結果も「異常なし」であり、令和4年度および令和5年度に補助対象外であった人
  - ⑦ 子宮頸がん検診および乳がん検診無料クーポン対象者(→P9)

※5月2日までに申し込みいただいた人は、5月中旬ごろ受診券を送付します。5月3日以降は、申し込み受付後2週間程で発送します。  
※令和4年度あるいは令和5年度に、市の実施した子宮頸がん検診とHPV検査を同時受診され、細胞診・HPV検査ともに「異常なし」の人は、今年度は、子宮頸がん検診については受診できません。

医療機関で受診する場合は、必ず事前に医療機関へお問い合わせの上、受診してください。

お問い合わせ先

健康づくり課

電話 354-8282

FAX 353-6385

申し込み期間後半は**定員に達する可能性が高く、予約できない**場合があります。期間に余裕をもってお申し込みください。

## 「がん検診」ってどんな検査をするの？

	検査内容	対象者	国の推奨する受診間隔
胃がん検診	問診、胃部X線検査(バリウム) 〈誤嚥の危険がある人は、個別がん検診を受診ください。〉	昭和60年4月1日以前の生まれの人(40歳以上の人)	年1回
	問診、胃内視鏡検査(胃カメラ) 〈判定の精度を高めるため、2人の医師で読影をする二重読影をしています。〉	50歳以上で令和6年4月1日現在の年齢が偶数である人	2年に1回 ※1
大腸がん検診	問診、便潜血検査 〈便中から肉眼では分かりにくい血液を検出し、消化管からの出血の有無を調べます。〉	昭和60年4月1日以前の生まれの人(40歳以上の人)	年1回
肺がん・結核検診	問診、胸部X線検査 痰の検査 〈問診の結果、必要な人のみ〉	昭和60年4月1日以前の生まれの人(40歳以上の人)	年1回
女性のみ 子宮頸がん検診	問診、視診、内診 子宮頸部の細胞診※2 〈子宮頸部を綿棒などでこすり、取れた細胞粘膜を調べます。〉	平成17年4月1日以前の生まれの人※3(20歳以上の人)	2年に1回
	HPV検査(ヒトパピローマウイルス検査) 市の子宮頸がん検診と同時実施 子宮頸がんの発生に関与しているヒトパピローマウイルスの感染の有無を調べます。	20歳～50歳以下で3歳毎の年齢の人※4(対象は8ページ参照)	3年に1回
女性のみ 乳がん検診	問診、乳房超音波検査(エコー)	平成17年4月1日以前の生まれの人(20歳以上の人)	2年に1回
	問診、乳房X線検査(マンモグラフィ) マンモグラフィまたはエコーのどちらか一方	昭和60年4月1日以前の生まれの人(40歳以上の人) <b>個別検診対象者</b> 昭和56年4月2日～昭和57年4月1日生 昭和42年4月2日～昭和43年4月1日生 昭和54年4月2日～昭和55年4月1日生 昭和40年4月2日～昭和41年4月1日生 昭和52年4月2日～昭和53年4月1日生 昭和38年4月2日～昭和39年4月1日生 昭和50年4月2日～昭和51年4月1日生 昭和36年4月2日～昭和37年4月1日生 昭和48年4月2日～昭和49年4月1日生 昭和34年4月2日～昭和35年4月1日生 昭和46年4月2日～昭和47年4月1日生 昭和32年4月2日～昭和33年4月1日生 昭和44年4月2日～昭和45年4月1日生 昭和30年4月2日～昭和31年4月1日生	

※1 胃内視鏡検査については、50歳以上で受診年度の4月1日時点の年齢が偶数である人が対象となります。対象の人は、個別がん検診受診券に記載があります。

※2 ベセスダシステムという診断基準を採用しているため、年齢やホルモンバランスなどの影響によって、採取した検体中の細胞数が少ない場合、集団がん検診では結果の判定ができないことがあります。このため、過去に判定ができなかった人は、個別がん検診での受診をおすすめします。

※3 令和4年度あるいは令和5年度に市の実施した子宮頸がん検診とHPV検査を同時受診され、細胞診・HPV検査ともに「異常なし」であった人は今年度、子宮頸がん検診は受診できません。なお、令和3年度に市の実施した子宮頸がん検診とHPV検査を同時受診され、どちらの結果も「異常なし」であった人は、今年度は子宮頸がん検診の補助の対象です。

※4 対象者で希望者は受診時にお伝えください。

**同じ種類の検診について、集団がん検診と個別がん検診の両方を受けることはできません。どちらかの方法を選択してください。**

重複受診は身体等に悪影響を及ぼす場合がありますので、決められた受診間隔・回数を受診をお守りください。